

開催期間:

2012/05/13～

一回目の送付の際は文字は黒で 2回目以降は修正部分を赤字にしてください

スタッフ:

16members

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

支援者:

宮城県、仙台市、地元大学、地元新聞(県内購読率52%)、全国紙、地元テレビ局、地元ラジオ局

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

予算:

11,000 US Dollar

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

利益／損失:

NONE

簡潔な短い文章にしてください。やっつけ仕事禁止

誰の為に？

仙台市に住み暮らす人々1,050,000人

主語を忘れないように「我々 JCI〇〇は、」「我々委員会は、」です。

目的:

- ・JCI仙台は、未来の地域について積極的に考え行動する高校生に PositiveChang します。
- ・彼らが未来の地域を創造するリーダーとなる事で、継続的な地域の発展を目指します。

<p>3行程度 400字以内</p>	<p>目的は持続発展可能な地域社会創造。 その為に高校生が ACTIVE CITIZEN になる必要がある。 ①JCI仙台は、高校生たちの自立を支援する。 ②我々は、高校生が地域に積極的に携わっていく事業を支援する。 ③我々は、高校生たちが関係機関と協力し事業構築することを支援する。 ④我々は、高校生同士で地域の問題について話し合い、 問題解決へ向けての行動を起す機会を提供。</p>
--------------------	---

	<p>高校生の生活意識調査。 彼らは地域に関心が低い。 JCI 仙台は、高校生たちを能動的な市民に変革する必要があると考えました。</p>
--	---

簡潔な短い文章にして下さい。やっつけ仕事禁止

<p>概要:</p>	<p>JCI仙台は、このプログラムの実施で JCI ミッションとビジョンを推進した。 ①JCI仙台は、5月に高校生を集めた討論会を開いた。 ②高校生は、討論会の中で地域との関わりと、地域の将来について意識が高まった。 ③高校生主体で事業を構築させ、JCI 仙台は支援を行った。 ④高校生は、事業を主体的に実施したことで、率先して行動する能動的な市民に PositiveChange した。 ⑤その成果として、高校生たちは、仙台市に地域の問題解決の提言書を渡した。 ⑥高校生は、活動を継続するために高校生連絡協議会を立ち上げた。 ⑦事業参加者が580名だった。</p>
-------------------	--

<p>全部で 400字以上</p>	
-------------------	--

主語を忘れないこと、単語は 7つ以下で 1文とすること

	<p style="text-align: center;">結果をキチンと確認しないとココは書けません。 解らない場合はすぐに関係者、参加者にアンケートをとり 関係者からのプラスとマイナスの評価を入手して下さい。</p>
--	--

結果：

高校生は、地域社会に貢献する能動的な市民(ActiveCitizen)に変わりました(PositiveChangeした)。
高校生は、自ら『高校生連絡協議会』を発足した。
彼らは地域の発展、地域の問題解決のために、関係機関と連携し活動を始めた。

高校生は、『高校生連絡協議会』の活動を経て、地域の問題解決の提言書を仙台市に提出。
内容は以下のとおりである。

- ①高校と地域の連携
- ②ボランティア活動の重要性
- ③コミュニティの確立とコミュニケーションの強化

『高校生連絡協議会』は、地域の慈善活動に積極的に参加している。
東日本大震災による被災者への支援活動に毎月参加している。

- ①被災者同士の交流の支援
- ②被災者や高齢者と定期的にコミュニケーションをとる
- ③自治会の活動支援

行動:

1月9日～2月10日 地域の高校生の意識調査
3月23日～4月27日 討論会参加者募集及び各学校への趣旨説明
5月13日 討論会実施
5月23日 打ち合わせ 役員の選任・連絡方法の確立・今後の日程に関して
6月2日 打ち合わせ 各々の地域における問題について・問題解決すべき地域の選定
6月16日 打ち合わせ 選定した地域の問題の調査
7月1日 打ち合わせ 選定した地域の問題の原因を調査
7月14日 打ち合わせ 選定した地域の問題解決の手法について
7月28日 打ち合わせ 選定した地域の問題解決の手法について
8月4日 調査 対象地域の自治会が抱える問題の説明・要望の聴取
8月18日 打ち合わせ 講師を招いて自治会に関する勉強会
9月8日 調査 対象地域の自治会と問題解決の手法について
9月15日 打ち合わせ 地域の問題解決と事業内容のリンクについて
9月22日 打ち合わせ 事業内容の最終確認
9月11日～9月18日 市内小中高校へポスター掲示依頼
9月11日 ホームページとフェイスブックでの告知開始
10月10日 事業実施
10月11日～12月4日 仙台市への提言書作成・『高校生連絡協議会』発足に向けた準備
12月14日 提言書の提出
翌年3月1日 『高校生連絡協議会』正式発足

考察や推奨

これまでのJCI仙台の青少年育成事業は参加型の事業でした。
JCI仙台は、参画型の事業にする事により、自ら問題を調査し解決に向けての積極的な行動に繋がり、以下の結果が得られた。

- ①高校生は、お互いの協力関係が得られた。
- ②高校生は、各種団体との交流関係が得られた。
- ③高校生は、地域住民との交流関係が得られた。
- ④高校生は、『高校生連絡協議会』を立ち上げた。
- ⑤『高校生連絡協議会』は、継続的に地域の発展、問題解決のために行動している。

	<p>想定以上の結果 高校生連絡協議会が出来たこと。</p> <p>①地域社会に貢献する能動的な市民になった高校生が、継続的に地域の発展に貢献していくために自ら『高校生連絡協議会』を発足した。</p> <p>②『高校生連絡協議会』の発足にあたり、仙台市教育委員会のバックアップを得た。</p> <p>要因と工夫</p> <p>①自主的に率先して行動する人を創ることに集中させるため、参画型の事業としたから。</p> <p>②高校生の自主性と行動力を生み出すために、高校生主体による事業構築。</p>
	<p>①学校と家庭・地域社会の融合を目指している団体(文部科学省、都道府県市町村担当者、小中高校の教員、自治会役員が所属する団体。会員数300名)に招かれ、『高校生連絡協議会』の活動の報告を依頼され発表した。</p> <p>来場者:約300名(主催者発表)</p> <p>②各高校より、『高校生連絡協議会』の活動報告を依頼される。</p> <p>各高校の文化祭にて、『高校生連絡協議会』の活動を発表する。</p>
	<p>本事業の特色</p> <p>① 意識変革により自立した高校生が高校生連絡協議会を発足したこと。</p> <p>次年度以降のメンバーへ伝えたいこと</p> <p>① 発足した高校生連絡協議会のバックアップの必要性</p> <p>② 継続的な市民への意識変革の重要性</p>

地域新聞社(地域購読率52%)に事業の告知を2回。

地域地元ラジオ局に事業の告知を5回。

チラシ800部配布。